



新年度が始まり一ヶ月余り経ちましたが、皆様どうお過ごしでしょうか。太陽光線が違ってきたな、と思うと夏、と同時に海解禁。今年もトロピカルビーチに浸かりに行こうと思います。

さて、皆様が市報を手にかけている頃はシミーも終了している方が多いと思います。今回は、シミーで受けた来沖の洗礼をご紹介します。

初めてのシミー。意味も目的も分からずにワクワクドキドキしながら大きなお腹を抱えて汗だくで山をゆくり登って行きました。やっと到着したお墓では男性達が無口にあたり草を刈り始め、適当な所で切り上げ、ブルーシートを敷きました。その後、女性たちが沢山の重箱を所々に並べ、親戚一同が座りだしました。私は遠くで無邪気に遊んでいる親戚であろう女の子をしばらく楽しく観察していました。その子は走って戻ってきたと同時に「あんな誰？」私に聞きました。突然あんな：私はア然として返す言葉もなく口あんぐり状態でした。何となく旦那に助けてサインを送りましたが、旦那は気にするな、という様子で「僕の奥さんだよ」と言っていました。

あれから十年、私の弟の結婚式が故郷の博多で行われたときの事。控室で久しぶりに顔を合わせた親族と談笑している時、遠くの方でいこに向かつて「あんな誰？」と聞いている私の娘を発見。同じようにア然と口あんぐりしているようだった。

あの時はどう説明したらいいか分からなかったけど、女の子が「私は沖縄人なの。」と自己紹介したい人を使う『沖縄式あいな』と今なら説明できます。

これからもシミーが更に濃く、楽しい思い出になりそうな予感がします。

皆様のご先祖様が今年も全国の老若男女を温かく見守って下さることをお祈りします。



### 茶

# ぐわーゆんだく

85

## イヌと泉

現在、普天間基地内の宇宜野湾のインガーという湧泉には、次のような昔話が伝えられています。

「ある早魃の年、首里王府勤めをしていた人が、その帰り道、ずぶ濡れになった一匹の犬が、土の割れ目から出てくるのに出会い、その割れ目に入ると、清水が湧き出ているのを見つけ、急ぎ掘り下げて生活用水とした」。

沖縄県の各地には、このような人と泉に関する伝説が多数存在します。有名な糸満の嘉手志川や竹富島にまでその伝説はあります。

内容によっては、犬が他の動物になつたり、山から下りてきたりしますが、前述した話と基本は同じです。普天間基地内の宇宜野湾にはアラグスクガーという湧泉がありますが、これは猫が見つけたという伝説になっています。

なぜこのような伝説が広く伝わっているのか、わかりませんが、宜野湾市の森の川の北側、100mほどの所に真志喜富盛原第二遺跡があります。

ここではグスク時代（700年

ほど前）の森の川から続くと思われる水路と溜池（クムイ）が確認され、溜池と水路の接する場所で、計7頭分の犬の骨が見つかりました。早魃などに際して祭祀を行ったものと考えられています。犬と泉の何らかの関係がグスク時代まで遡ることを裏付けるものです。



▶宜野湾インガー



▶真志喜富盛原第二遺跡検出のイヌ祭祀遺構

お問い合わせ  
教育委員会文化課  
☎八九三―四四三〇